

第 21 期生 三田論執筆プロジェクト紹介

第 21 期生 今野 息吹

Yang, Mao, Jia, and Bublitz (2018) によれば、恋愛を高次レベルで解釈する人は、恋愛刺激に露出した場合に同化効果が発生するため、甘い食べ物を選択する傾向にある一方、恋愛を低次レベルで解釈する人は、恋愛刺激に露出した場合に対比効果が発生するため、甘い食べ物を回避する傾向にあるという。しかし、この主張においては、恋愛刺激の量が考慮されていない。本研究は、恋愛刺激の量が、恋愛解釈レベルと食べ物の選好の関係に及ぼす影響を探究する。

◆研究について

私達第 21 期生は、9 人全員で 1 つの論文を執筆しました。何か面白い既存研究はないかと探していたところ見つけた「概念メタファー」という理論をテーマに据えて、研究を行いました。測定したい効果が現れるように実験のデザインを何度も見直したり、被験者グループの数が多くなりすぎてしまって十分な数の被験者の確保に時間がかかったり、並行して外部の複数の発表活動に参加したりと多くの困難がありました。楽しみながら研究に取り組むことができました。

◆慶應マーケティングゼミ合同研究報告会

三田祭最終日である 11 月 26 日に三田キャンパスの南校舎ホールで慶應マーケティングゼミ合同研究報告会(マケ論)が行われました。小野ゼミの発表順は最初でしたが、ポスターセッションや韓国の学会での英語発表を経っていたので、緊張せず、自信满满で発表に臨みました。國吉の甘い声で語りかける導入で始まった発表は、次に伊東による



発表後の記念撮影の様子

既存研究の論理の説明が行われ、各理論の解説が続きます。中越による概念メタファー理論の説明、長

谷川による解釈レベル理論の説明，山田による同化・対比効果，感性満腹感の説明，臼井による仮説の発表が行われた後，加藤によって実験・分析の詳細な解説が行われます。非常に説明の長いパートでしたが，加藤は見事に短期間で全て暗記し，滞りなく発表しきりました。次いで今野による学術的貢献・実務的含意の説明が行われましたが，厚生労働省という単語をど忘れしてしまい，数秒の沈黙を起こしてしまいました。苦肉の策で政府と説明し，全ての発表を終えると，質問・講評の時間が始まりました。まず，高田ゼミ生からの質問がされました。私達が前もって想定していた質問であったため，的確に回答することに成功しました。続いて，小野ゼミ第3期OBの高木研太郎さんによる講評と高橋郁夫先生による講評が行われました。どんな質問がされるのか恐々としていましたが，特に質問がされることはなく，研究をより深めるためのご助言をいくつも頂きました。マケ論という一つの大きな区切りを終えた私達は，達成感を感じつつも，未だ完成していない三田論の完成に向け，執筆に再び取り掛かりました。

◆献本セレモニー

三田祭後も続いた三田論の執筆がいよいよ終わった後，院生の北澤さんのご自宅で製本を行いました。（北澤さん，製本機をお預かりくださり，本当にありがとうございました。）2023年最後の本ゼミにて20分程時間をいただき，これまでご指導くださった小野先生，北澤さん，第20期の先輩方に製本した



献本セレモニー後の記念撮影の様子

三田論を献本するとともに，三田論の研究内容にちなんでチョコレート，そして各々が三田論のご指導に対する感謝の気持ちを書いたメッセージカードを差し上げました。

◆活動後記

6月のインカレディベート大会終了直後から始まった三田論執筆活動で私達は，多くの困難を乗り越えてきました。既存研究の十分な理解と説明，望ましい実験方法の模索，幾度とない文章の修正活動，国内外での発表活動など，どれも一筋縄では行かないことでした。初めて研究活動に参加した私達第21期生が，これらの困難を乗り越えられたのは，手厚くご指導くださった小野先生，院生の北澤さん，第20期の先輩方，貴重な時間を割いて私達に協力してくださった皆様のお陰です。この度は，私達第21期生の三田論執筆に多大なるご尽力をくださりまして，誠にありがとうございました。